

試合番号 : 214	試合会場 : このはなアリーナ (草薙総合運動場体育館)	観客数 : 1,900		
開始時間 : 13:00	終了時間 : 14:13	試合時間 : 01:13		
主審 : 戸川 太輔	副審 : 西中野 健			
東レアローズ	通算 9勝 15敗 ポイント: 31	25 第1セット 15	大分三好ヴァイセアドラー	通算 2勝 21敗 ポイント: 9
監督コメント 今日の試合は、昨日の敗戦を引きずることなくしっかりと勝ち切ることが出来ました。今、我々が出来ることは一つ一つの試合を勝っていくことが大事だと思います。来週もホームゲームで戦うこととなりますので、コンディションはしっかりと整えられると思います。準備して臨みます。たくさんの応援ありがとうございます。	3	25 第2セット 23	0	監督コメント 東レの様々な変化をつけた効果的なサーブに終始苦しめられました。我々は勝利が必要なので、最後まで喉らいついて勝利をつかみとります。本日も静岡での御声援ありがとうございます。
		25 第3セット 17		
		第4セット		
		第5セット		
		要約レポート 運敗から脱し1勝したい東レアローズと大分三好ヴァイセアドラーの一戦。第1セット、序盤東レ・ルジェのサーブで大分三好の攻撃を崩し、東レがリードを広げる。富松のブロックなどで一気に波に乗り、25-15でこのセットを取った。第2セット、東レが安定したサーブで多彩な攻撃を仕掛けてリードし、ルジェとアウンのスパイクで得点を重ね、このセットを25-23で連取した。第3セット、東レは一進一退の攻防が続くが、中盤、東レ・富松、李の切れのあるクイックで得点を重ね、そのまま勢いに乗った東レが25-17でこのセットを取り、3-0で勝利した。		

試合番号 : 215	試合会場 : このはなアリーナ (草薙総合運動場体育館)	観客数 : 1,450		
開始時間 : 16:00	終了時間 : 17:26	試合時間 : 01:26		
主審 : 城 智人	副審 : 澤 達大			
堺プレイゼアーズ	通算 11勝 12敗 ポイント: 34	25 第1セット 18	VC長野トライデンツ	通算 3勝 21敗 ポイント: 8
監督コメント 今日はブロックがとても良く、ファイナルステージへの道がさらに明確に見えてきたと思います。関田、山本のプレーも良く、チームを引っ張ってくれました。VC長野のディグがよく、ラリーになりましたが、取り切ることが出来ました。残りのレギュラーラウンドは4戦。来週は金岡でのホームとなります。たくさんのサポーターの皆さんの応援を力に頑張ります。	3	25 第2セット 19	0	監督コメント 相手は全日本選手が入っているチームなのでとても経験があります。今日は経験の少ない私達が勝つには、難しいゲームでした。VC長野らしいバレーが出来なかったです。来週も三島で試合があるのでしっかり準備をして臨みたいと思います。応援ありがとうございます。
		25 第3セット 19		
		第4セット		
		第5セット		
		要約レポート 昨日の勝ち星を勢いにファイナルステージ進出を狙う堺プレイゼアーズと、連勝したいVC長野トライデンツの一戦。第1セット、序盤からどちらも譲らずサイドアウトを取り合い一進一退の攻防が続く。堺のセッター関田の多彩なトスワークから樋口、竹元のスパイクでリードを奪い、25-19で堺がこのセットを取った。第2セット、セットを取り返したいVC長野はリベロ山本、アウトサイドヒッター池田を中心に得点を重ねる。しかし中盤以降は堺トレスの強力なバックアタックが冴え、VC長野の追撃を許さず25-19でセットを連取した。第3セット、堺は樋口の3連続得点から主導権を握り、一気に4点差まで引き離しリードする。VC長野も栗木、パトリックを軸に反撃し同点に持ち込む。終盤になると堺・関田がツースパイクと緩急を付けたサーブで得点をし、リベロ山本の精度の高いサーブレシーブによって流れに乗った堺がセットカウント3-0でこの試合を制した。		

試合番号 : 216	試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)	観客数 : 3,000		
開始時間 : 12:00	終了時間 : 14:11	試合時間 : 02:11		
主審 : 村中 伸	副審 : 山本 和良			
ウルフドッグス名古屋	通算 8勝 15敗 ポイント: 26	29 第1セット 27	パナソニックパンサーズ	通算 22勝 2敗 ポイント: 64
監督コメント 昨日の敗戦から学び反省すべき点を話し合い、この試合に挑みました。お互いに粘り強いディフェンスする場面が多く、最後は決めき事が勝負を分けたと思います。来週は勢いのある堺プレイゼアーズ戦となるが、相手の事よりウルフドッグス名古屋の良さを生かしたい。パークアリーナ小牧に足を運んで下さった皆さん、応援ありがとうございます。ウルフドッグスレッドに会場染まるようにチーム一丸となって戦います。我々と一緒に戦いましょう。	1	19 第2セット 25	3	監督コメント 1セット目、相手サーブに苦しめられた。2セット目以降、相手の強いサーブでも我慢し粘り強く戦い抜くことができた。レギュラーシーズン残り3試合、目の前の試合を全員で戦い抜きたい。本日もたくさんのご声援ありがとうございます。
		21 第3セット 25		
		15 第4セット 25		
		第5セット		
		要約レポート ウルフドッグス名古屋とパナソニックパンサーズの試合は3-1でパナソニックが勝利し、首位をキープした。第1セット、どちらもゆずらない接戦であった。17-18からWD名古屋がパナソニックのクビアクを2連続でブロックし逆転したが、パナソニックも24-23から2連続ブロックを決め24-25と追撃する。最後はお互いに我慢の時間だったが、WD名古屋の山田がサービエースを決めこのセットを先取る。第2セット、巻き返したいパナソニックは、2-1からクビアクのサーブで勢いをつける。清水の狙い澄ました技ありのサービエースも決まり徐々に点差を広げる。その中で、パナソニックのクビアクや久原の個人技のうまさも際立つ得点シーンが多くみられた。WD名古屋は9-15から山田の2連続サービエースなどで巻き返しを図るが、前半の失点が重くのしかかり追いつくことが出来ずこのセットを落としてしまった。第3セット、第2セットの勢いそのままにパナソニックが得点を重ねていく。ラリーの中でクビアクのトスフェイント、2段トスのBクイックなど、レベルの高い技を随所に魅せたパナソニックが連取する。このセット、WD名古屋はガスバリーニに代わってスタメンに入った棒山が奮闘するも及ばなかった。第4セット、パナソニックが随所で相手の嫌な所を攻め続け、中盤までつづけたこのセットも掴み試合に勝利した。特に久原・清水・クビアクのサイドアタッカー陣が試合を通じて役割を果たし、また山内・白澤の両ミドルブロッカーはともに50%を超える決定率をたたき出し、深津のトスワークも光っていた。WD名古屋は劉や傳田などで攻め続けたが流れを引き寄せられなかった。		

試合番号 : 217	試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)	観客数 : 2,600		
開始時間 : 14:50	終了時間 : 16:35	試合時間 : 01:45		
主審 : 中山 健	副審 : 浅井 唯由			
JTサンダーズ広島	通算 19勝 5敗 ポイント: 56	25 第1セット 18	サントリーサンバーズ	通算 17勝 6敗 ポイント: 52
監督コメント 順位争いをおこなっている相手との直接対決に敗れたのはとても悔しい。だが、この敗戦を引きずる事なく残り3戦を巻き返して戦っていかねばならない。ファンの皆様ご声援ありがとうございます。	1	21 第2セット 25	3	監督コメント 昨日の対戦でチームがひとつになり、勝つ意識が見え選手は素晴らしいプレイをしてくれた。2連敗しているJT広島に勝利できた事はチームの自信になったと思います。来週に向けてしっかりと練習して上位目指してチーム一丸となり頑張ります。本日はたくさんの応援ありがとうございます。
		17 第3セット 25		
		17 第4セット 25		
		第5セット		
		要約レポート サントリーサンバーズが試合前時点で高順位でJTサンダーズ広島を相手に、逆転で勝利した。第1セット、サーブとブロックで優位に立ったJT広島が先取した。特にエドガーが3本のサービエースを奪い、チームに勢いを付けた。第2セット、サーブとブロックで優位に立ったJT広島が先取した。特にエドガーが3本のサービエースを奪い、チームに勢いを付けた。第3セット、サントリースが安定したサーブで相手を崩してムセルスキーが強打で決めるパターンを繰り返して、4-0とリードした。その後、サントリースは10-4とリードを広げるまでに3本のブロックを決め、ネット際の制空権を握った。その後JT広島がブロックを3本決めたが、サントリースがサービエースを奪うなど主導権を譲らず、JT広島の追撃を許さなかった。第4セット、サントリースが安定したサーブから思い通りの攻撃を展開した。序盤の3連続得点で7-5とすると所所でブレイクを繰り返して、サーブ・リードのまま連取した。JT広島はエドガーが5本のアタックを決めたものの、チーム全体で8本しか決められず、ともに攻撃できぬままセットを失った。第5セット、サントリースの優位は変わらず、4度の3連続得点を挙げて勝利を収めた。サントリースは5-1までに3本のブロックを決めたが、特に相手のエースを止めた季のブロックが大きかった。また、中盤に季と小野がサーブで得点するなど、サーブとブロックを軸とする壁石のバレーを展開することができた点が大きかった。		

※本票の著作権は、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構に帰属します。